

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### 《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

#### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	人間福祉研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.1 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針
小項目	6.1.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
要素	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示 教育目標と学位授与方針との整合性 修得すべき学習成果の明示
小項目	6.1.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
要素	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示 科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示
小項目	6.1.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか。
要素	周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	6.1.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

#### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

##### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 高い実践能力や実証研究能力を涵養するという教育目的を達成するために具体的な教育目標や方針を設定する。	→達成可能な目標や方針について関連するすべての広報媒体での公表。	C	C	B	B	B
2. 2013年度までに修士学位と博士学位の学位授与の方針および過程を明確化する。	→学位授与に至る方針および経過に関するロードマップの作成、指導体制の明示。	C	B	A	A	A
3. 教育目標、方針、課程および学位授与の方針に関して、大学院関連のすべての広報媒体で公表する。	→大学ホームページ、大学院案内などすべての広報媒体における公表。	B	B	B	B	B
4. 教職員、大学院生により教育目標、方針、課程および学位授与の方針の達成状況をアンケート調査により評価する。	→教職員、大学院生に対するアンケート調査の報告書の作成。	-	C	C	C	C

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

##### 《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 教育目的を達成するための具体的な教育目標や方針の設定について、大学院諸問題検討委員会・FD委員会を中心に検討を重ね、研究科委員会において審議決定を行ってきた。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 教育目標や方針について、決定した事項を大学院ホームページや大学院案内、履修心得に掲載し、受験生、在学生、教職員への周知が図られたといえる。学習成果の明示については、検討途上であり、課題を残している。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 教育目標がどのような学習成果に繋がっているかについて、大学院諸問題検討委員会・FD委員会において、GPAの導入等を含めて、評価指標を検討する。	☆
		その他	☆

目標2	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2013年度までに修士学位と博士学位の授与の方針および過程を明確化するために、大学院諸問題検討委員会・FD委員会を中心に検討を重ね、研究科委員会において審議決定を行った。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 修士学位と博士学位の授与の方針および過程について決定した事項を大学院ホームページや大学院案内、履修心得に掲載し、受験生、在学生、教職員への周知を図った。2013年度より前期課程における中間報告会を開始し、後期課程成果報告会の強化を行った。報告会ではアンケートを実施した結果、学生・教員共に大変好評であった。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後ともロードマップに沿った指導により、学位授与が円滑に行われるように、大学院諸問題検討委員会・FD委員会などにおいて、点検・検証を行っていく。報告会も継続的に実施するなかで、参加度を高める努力をする。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標3	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 教育目標、方針、課程および学位授与方針に関して、大学院諸問題検討委員会・FD委員会において検討を重ねた結果を研究科委員会で審議・決定し、大学院関連のすべての広報媒体で公表した。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 教育目標や方針について決定した事項を大学院ホームページや大学院案内、履修心得に掲載し、大学入試説明会においてもその内容を活用した資料を作成するなど、受験生、在学生、教職員への周知、情報提供に資することができた。効果の実証については、今後の課題である。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後は目標4にも繋がるが、大学院諸問題検討委員会・FD委員会などにおいて、結果の評価方法を具体的に検討し、研究科委員会の審議を経て、実施する。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標4	C	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 大学院諸問題検討委員会・FD委員会の議題として検討を行い、必要性は認識しているが、具体的な方策を決めるところまでには至っていない。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 教職員、大学院生による、教育目標、方針、課程および学位授与方針の達成状況に対する具体的な評価方法・内容は未定である。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 大学院諸問題検討委員会・FD委員会の議題として、教職員および大学院生に対して教育目標、方針、課程および学位授与方針の達成状況に関わるアンケート調査などの方法を検討し、研究科委員会の審議を経て実施する。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
備考			☆